

今後の進め方等について

平成27年4月
資源エネルギー庁

放射性廃棄物WG(4月17日)における議論について

- 4月17日に開催された第19回放射性廃棄物WGにおいて、これまでの技術WGの検討状況について報告を行った。
- 科学的有望地の位置付けや、使用するデータの性格、要件・基準の定義や検討の手順など、議論の前提の整理については、概ね理解が得られたと考えられる。
- 具体的な要件・基準の検討についても、地下環境特性及びその長期安定性の観点からの「回避すべき範囲」「回避が好ましい範囲」に関する検討状況や、建設・操業時の安全確保の観点からの検討状況については、概ね理解が得られたと考えられる。
- 他方、地下環境特性及びその長期安定性の観点からの「好ましい範囲」については、定性的な要件の設定はある程度可能でも、基準を示すことには概ね困難であること、また、そもそも総合評価を行わない段階での設定には注意深くあるべきであること等について、一般的な理解を得る上での課題が指摘された。
(意見例)
 - ～具体的な基準がもっと明らかになると期待していた。専門家が議論を重ねた上での結果はしっかりと受け止めるが、今後、これらを一般の方にどう理解してもらうかが課題。
 - ～総合評価が必要ということだが、捉え方によっては総合評価が出来ないので、最初から有望地の段階では「好ましい範囲」を議論する気がないように見える。
- また、今後については、(専門的な事柄であって決して容易ではないことは承知しているが)一般の方にとってのわかりやすさを重視してほしい、技術WGとして可能な限りクリアカットな結論を導いてほしい、検討の軌跡を示すなどWGの検討結果の信頼性を高めることを意識してほしい、といった意見があった。

今後の進め方(案)

- 放射性廃棄物WGでの議論も踏まえ、技術WGとして、以下の整理・検討等を行うこととしたい。

○段階的な調査との関係整理

- ・ 文献調査の前段階としての科学的有望地の検討の段階では、総合評価を行うことは事実上困難であるとの整理について、一般的には、必ずしも十分な理解が得られていない状況。今後、国民向けに分かりやすい情報提供を行っていく必要性を認識し、安全評価を含めた総合的な評価が段階的な法定調査の中でどのように実施されていくのかを、改めて整理・確認する。

○外部の専門家からの意見募集

- ・ 信頼性向上の観点から、本日までの議論について、積み残しの細かな論点を含めてできる限り再整理した上で、その内容について、現時点で使用可能と整理している文献・データの妥当性を含め、専門家に対して意見募集を実施する。

○事業の実現可能性の観点からの要件・基準の検討

- ・ 処分地選定調査や、地下・地上施設の建設・操業、操業段階での輸送などを円滑に行う上で考慮すべき事項など(周辺への影響や用地確保等に関する制約、それらに対する技術的対応の可能性など)を整理し、事業の実現可能性の観点からの要件・基準の検討を進める。

○最終的なアウトプットの整理

- ・ 上記の整理や検討等を踏まえて、法定調査との関係性など国民にとってのわかりやすさに配慮しつつ、地域の適性についての考え方とその提示の方法について、全体の整理を行う。

段階的な調査との関係整理について

- 最終処分地選定は、多段階（文献調査、概要調査、精密調査等）を経て行われることを前提としており、諸外国でも同様の考え方が取られている。概ね、調査段階の初期では、広域スケールで地質環境に影響を与える天然現象等を確実に排除しつつ、段階的に調査スケールを小さくしてより詳細に地質環境特性を把握した上で、地層処分システムの安全性等を総合的に評価し、その成立性を確認することとしている。
- 科学的有望地を提示する際には、その位置付けを明らかにするために、こうした最終処分地選定の全体像を示していくことが、国民理解の観点から重要である。
- 本日は、科学的有望地選定後の法定調査（文献調査、概要調査、精密調査）において、実施主体として調査・評価をどのように進めていくのか、NUMOからその方針・考え方をヒアリングし、全体のプロセスの中で総合評価が段階的にどのように実施されていくと想定されているかを確認することとする。
- なお、その参考として、補足的に、法定調査段階で活用できる研究開発の成果などについて、JAEAからも併せてヒアリングを行うこととする。